

協会だより



3 新年のごあいさつ

4 丑年 年男、今年もよろしくお祈いします。

7 **関東地域づくり協会からのお知らせ**

令和2年度 関東地方防災エキスパート支部別講習会を実施
 関東・水と緑のネットワーク 令和2年度交流会
 第33回 道のある風景写真コンクール

10 **プロジェクトK⑩**

未知への挑戦！
 国内最大級の地下放水路
 首都圏外郭放水路

14 **関東の宿場町④**

東海道 箱根宿 神奈川県

16 **関東の土木遺産④**

南高橋 東京都

18 **会員のひろば**

コロナ禍の日々

19 **会員情報**

新会員紹介・お悔やみ
 編集委員会だより

20 **ピックアップ 関東の道の駅③**

ウェルネス(健幸)をキーワードに、
 地域の交流を促進する
 道の駅「むつざわ つどいの郷」



表紙の言葉

そりまちいぶき
 反町維吹さん(群馬県高崎市立長野郷中学校2年生)

小正月

「このたびは金賞という素晴らしい賞に選んでいただき、ありがとうございます。この写真は小正月に行われる、地域のどんど焼きの時に撮影した写真です。今回の賞を励みに、写真を沢山撮影し、また来年も応募できるように頑張りたいと思います」

理事長挨拶 新年のごあいさつ

(一社)関東地域づくり協会 理事長
奥野晴彦



令和3年の年頭に当たり、一言ごあいさつ申し上げます。

今年の年明けは外出自粛ムードの中、例年に比べ寂しい新年だったという方が多かったと思います。さらに新年早々、新型コロナウイルス感染者の数が急激に増加し、再度の緊急事態宣言が発せられました。ワクチン接種が世界各地で開始され、わが国でも2月末ごろには接種が開始されるとの発表がありました。ワクチンが期待どおりの効果を発揮し、パンデミックがいち早く終息することを願うばかりです。

コロナ禍の中、協会の業務執行もさまざまな対応を行う必要がありました。協会の業務は、マネジメント業務や第三者品質証明事業など、業務の性格上あるいは情報セキュリティの確保などの観点から、全面的な在宅勤務やテレワークは困難ですが、昨年の緊急事態宣言時には、人と人の接触をできるだけ減らすことの重要性にかんがみ、何とか業務を継続できる範囲で、在宅勤務や時差通勤を実施しました。それ以外にも、職員への感染防止行動の周知、販売窓口でのビニールカーテン・アクリル板の設置、来客への消毒の徹底依頼、執務室でのパーティションの設置などの対策を講じてまいりました。その効果あってか、現在までのところ、職員の中に感染者はおりません。この間、会議室の使用や談話室の利用に関し、会員の皆さまにはご不便をおかけしました。改めてお詫び申し上げます。

昨年中の協会業務は、収益事業については、おおむね計画に沿った執行ができたのではないかと考えております。今年度はあと数か月残しており、感染状況はさらに厳しくなっておりますが、昨年の経験を生かし、今年度業務の仕上げと来年度に向けての準備を着実に進めてまいります。

協会業務のもう一つの柱である公益事業は、防災事業、地域活性化事業、環境保全事業、講演会事業などを行っていますが、これらの事業の中には、地域の皆さまのさまざまな活動を支援するという事業も多くあります。昨年は、人が集まる機会をできるだけ減らすということから、支援すると決定した事業でも、計画の縮小、中止を余儀なくされるものが多くありました。これらの事業は、地域の皆さんの自発的、積極的な取り組みにより、地域の絆を深め、賑わいを創設するうえで大きな役割を果たす事業であり、継続することに大きな意味があると思います。一旦途切れますと、再び立ち上げるには大きなエネルギーを必要とします。コロナ禍が一刻も早く終息し、従前どおりの活動が続けられることを願っております。

協会主催の講習会や防災エキスパートの皆さまの活動も影響を受けました。災害復旧技術講習会や防災エキスパートの支部別講習会の一部でWebにてオンデマンド配信を実施したほか、事務所との意見交換会においてリモート会議方式を取り入れるなどの対応を行いました。エキスパートの皆さまにもご迷惑をおかけしたことと思います。昨年は関東地方では大きな自然災害はありませんでしたが、今後災害時の対応や平常時の活動の方法も工夫を凝らしていく必要があるかも

しれません。皆さまには、引き続きご協力いただきますようお願いいたします。

建設現場のありようも大きく変化しつつあります。現場の省力化、生産性の向上等のため、従前からi-Constructionが進められてきましたが、コロナ禍の下インフラ分野のDX(デジタルトランスフォーメーション)の取組の中で、この変化が一気に加速されつつあります。測量、設計、施工の各段階において、ドローンや3次元データの活用、施工機械の自動化、無人化のほか、現場立会の遠隔化なども進められています。このことは今後も新しい技術の開発、導入によりさらに進展するものと考えられますが、協会の業務もこの情勢に的確に対応していかなければなりません。この際、機械に使われるのではなく、現場のことを周知している人間が、機械を使いこなすということが大事ですが、そのため、人材の充実も含め、適切な投資を行っていかねばなりません。先ほど申し上げました防災エキスパートの活動も、新しい技術を導入していく必要があるでしょう。

さて、昨年は新型コロナウイルスによる感染拡大のほかにも、今後の世界やわが国に重要な影響を及ぼす出来事が多くありました。アメリカの大統領選挙において、現職が敗北し新しい大統領が就任することになりました。英国がEUから離脱しました。わが国でも新しい総理大臣が就任されました。世界の政治、経済面での当面の最大の課題はコロナ対応ですが、その後の新しい秩序の構築は、私たちの生活に大きな影響を及ぼす極めて重要な、すべての人の英知を結集しなければならない課題であります。ブランクがあってはならないと思います。

今年は、東日本大震災から満10年になります。地域の賑わいの創出など今後の課題はまだありますが、復興は進展してきています。一方、この10年間に、全国各地でさまざまな自然災害が発生しました。昨年も、7月に熊本県の球磨川流域で大水害が発生し、多くの人命と財産が奪われました。わが国のインフラが、まだまだ脆弱であることを改めて痛感させられました。

激甚化する災害に対処するため、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が昨年暮れ閣議決定され、今後5年間で15兆円の事業を加速して進めていくこととなりました。初年度として、令和2年度第3次補正予算において、国費約1.7兆円が計上され、令和3年度予算の公共事業費6.1兆円とともに今後国会で審議されます。これらの予算の早期の成立と、着実な執行が期待されます。

インフラ整備・管理を支援することは、協会の重要な使命であり、協会の役割と期待は益々大きくなるものと考えられます。新しい技術を取り入れ、協会に向けられる期待に的確に応えられるよう、今年も職員一同全力を挙げて取り組んでまいりますので、会員の皆さまには、引き続きご指導、ご鞭撻をお願いします。

コロナ禍の1日も早い終息と皆さまのご健勝を祈念いたしまして、ごあいさつといたします。

丑年

年男、
今年もよろしく
お願いします。

高齢者になってしまいました

昭和24(1949)年生まれ

飯田芳夫さん

元大宮国道事務所副所長



新年あけましておめでとうございます。

一昨年に再就職先を退職し、隠居生活中の老人にも6回目の年男(丑年)がやってきました。50年余りの長い期間勤めることができましたことは、上司、先輩、同僚からのご指導・ご協力のおかげと感謝申し上げます。

会員名簿の勤務先が「自宅」となり、晴耕雨読の刺激のない日々を送っております。

年齢を重ね、車に高齢者マークを付けるようになりました。75歳と思っていたのですが70歳に改正されておりました。努力義務ですがぜひ付けるようにしてください。

高齢者となり、名前や昨日食べた献立を思い出すのにも時間がかかるようになり、いよいよボケの階段を上り始めたようです。パズルやクイズ番組でボケ防止に努めるようにしていますが、難しいクイズ番組では、ただただ回答者に感心するばかりで自分の脳の活性化にはなりません。

最近、高齢者向けの「ゆるい」クイズ番組を見つけましたので紹介いたします。月曜から金曜日の午後10時からBSフジで放送している「クイズ脳ベルSHOW」です。回答者は50代から70代の元アイドル・スポーツ選手・芸人ですが、その変わり果てた姿やボケぶりが笑えます。問題は昭和時代の物の値段・名前当て、歌詞の穴埋めなどで、ヒントも多く、当時は懐かしく思い出しながら答えへ導いてくれます。騙されたと思って一度見てみてください。

昨年からのコロナ禍により何かと不便な生活を送られていると思います。「人間万事塞翁が馬」や「禍を転じて福となす」の諺があるように、何が幸いになるかわかりません。コロナ禍が終息し、会員の皆さまに「幸・福」がやってくるようお願いしております。

終わりに、今後ともよろしくお願いたします。

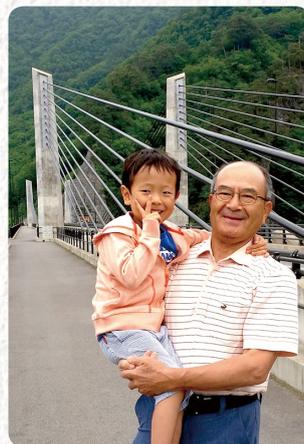
6回目の年男を迎え

昭和24(1949)年生まれ

細谷悦雄さん

東鉄工業株式会社
元道路部道路工事課長

孫と、工事中の
ハッ場ダムにて



新年あけましておめでとうございます。

事務局から執筆依頼を頂いたときは「え！私!？」と驚きましたが、本誌第15号の「プロジェクトK33」で私の一足跡を掲載していただいたことへの感謝の気持ちも含め、僭越ながら寄稿をお受けした次第です。

6回目の年男かと思うとき、「あの新入生がもう監督官！あの係長がもうOB！」、運転免許更新前に「高齢者講習」、「ゴルフ利用税が免除！」、巡回「関節痛」、人間ドックのたび「身長が-5mm」、さらには毎朝忘れず「6種の錠剤」等々、あらためてこれまでの年男時とは異なった人生の領域に入ってきていることを感じます。

さて昨年は事務所OB会や講演会、各種飲み会などが中止や自粛、また我が家的にも外食や都内在住の息子家族が里帰りを我慢するなど、今まで当たり前と思っていたことが簡単に覆された1年となってしまいました。特に、志村けんさん（誕生日が同じで私が1歳上）が亡くなった4日後の夜、私も突如39℃の高熱を発し、幸い一過性で済みましたが、あの時は正直「俺もこれまでか」と奈落の底へ落された気分を味わいました。

あれから9カ月、再び全国の感染者数が拡大を続けており、皆さまも「めでたさや中位なりおらが春」の心境で正月を迎えられたのではないのでしょうか。とはいえ希望の新春として、一日も早く安心・当たり前の生活が戻ることを願うとともに、皆さま方のご健勝を心より祈念申し上げます。

コロナに負けるな! エンジョイ還暦!

昭和36年(1961)年生まれ

娘と。Go to 富士山

中原浩慈さん

若築建設株式会社
元横浜国道事務所副所長

新年あけましておめでとうございます。

おかげさまで今年5回目の年男で、2月には還暦を迎えます。一昨年の6月から若築建設株式会社に勤めております。

今年は新型コロナが収束して社会に笑顔が戻り、1年延びた東京オリンピック・パラリンピック2020が無事に開催されることを切に願っております。

さて、60歳になる私は今年は、何をどうしましょう。新しい職場では3年目に入りますが、まだまだ会社員として会社のためにどうすればよいのかと戸惑ったりすると思います。その時はどなたか相談させていただくと思いますので、引き続きよろしく願います。

私生活ではこれまで釣りやマラソンなどやりましたが、どれも中途半端に途絶えており、再開する気力も育った腹回りの中に埋もれている感じです。ただ、再就職を機に四半世紀ぶりにゴルフを再開しました。会社内にもゴルフをやる人が多く楽しんでおりますが、まだまだ壁が立ちただかっており、今年はその壁を破りしっかり伸び代を縮めたいと思います。

また、この年になると日頃の会話の中でも健康の話が多くなり、やれ中性脂肪がどうかγ-GTPがどうか、生活習慣に気をつけなくてはと思わざるを得なくなりました。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、私はお酒が結構好きです。お酒は社会生活を楽しくするための重要なアイテムだとも思っております。身体のこと気になりますが、今年もコロナ対策をしっかり行いつつ、楽しくお酒を飲みたいと思っていますので、ご一緒の機会があればよろしくお付き合いください。

とりとめのない年男の抱負になりましたが、今年もどうぞよろしく願います。



牛に引かれてスロー・クイック

昭和24(1949)年生まれ

落合清二さん

三井共同建設コンサルタント株式会社
元品木ダム水質管理所長

新年あけましておめでとうございます。

私は、八ッ場ダムのある長野原町の曹洞宗雲林寺で生まれました。両親は台湾からの引揚者で姉は台湾で生まれています。母がお寺の住職さんと同級生で、御厚意によりお寺の一室を家族で借りることができ、私が生まれたと聞いています。お寺での記憶はありませんが、健康なのは仏様の加護があるのかもしれない。



勤務は、国土交通省江戸川河川事務所工務課から始まりました。職員は当時約600人で、工作、理容、青焼き、写真現像が直営で行われていました。工事は直営もあり請負工事への移行期の中で、仕事は部屋の清掃・ゴミ片付け、発注図面の色塗り(盛土は緑、切土は赤)、プラニメータによる面積測定、積算では「タイガー計算機」と「そろばん」で単価表・内訳表を作成しました。現場では、杭打機の下で油にまみれリバウンド計測を経験できました。昨今では設計はBIM/CIM、DX、デジタルツインなどで行われており、時代の流れを感じます。

寮生活では先輩のおごりで達磨ストーブでのイカ焼、ホワイト餃子で満腹に、土曜は半ドンで日曜日までの徹夜麻雀か流行りの映画を見て肩を怒らせ炒飯と拉麺(100円)で食事。寮主催の年末パーティーでダンスも覚えバンド・ルナ・ハワイアンズで活動。パーティーでは妻とも知合い結婚。10年余りの同事務所でのさまざまな経験が大きな財産となって今に至っています。公私共に皆さまに感謝。今後は、牛に引かれてスロー・クイックで生きたいと願っています。



WELL-BEING

昭和36年(1961)年生まれ

吉田武史さん

開発技建株式会社
元企画部環境調整官

あけましておめでとうございます。

昨年4月に退職し、6月から建設コンサルタントの開発技建株式会社に勤務しております。

20歳で函館の同級生と別れて上京してから、あっという間の40年。優しい先輩、楽しい仲間、優秀な後輩に恵まれたたくさんの社会貢献ができたのではないかと考えております。

土研採用当時は常磐道の谷田部-千代田石岡間が開通したばかりでした。数年後に上司から「つくばにも高速道路ができるらしいよ」と教えていただいたのが圏央道でした。その後、関東地整に異動になり茨城県内の圏央道のルート選定から都市計画決定まで担当し、副所長時代に全線開通を目の当たりにしました。このような大規模プロジェクトに計画から開通まで経験させていただいたことにとっても感謝しております。

さて、昨年は新型コロナウイルス禍のため、しばらくの間は外出を自粛していましたが、秋頃から趣味の温泉旅行を開始。三密を避けて郊外の秘湯、湯西川、奥鬼怒、裏磐梯などを巡りました。汗ばむくらいのウォーキングと温泉、そして地元の食材を使った食事など、健康この上なしです。昨年11月からまた感染拡大しましたが、今年は新型コロナを克服して勉強会(お酒付き)も気兼ねなくできたらいいなと思っています。WELL-BEING。心身ともに健康で幸福な社会でありますように。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。



今までも、そしてこれからも……

昭和36年(1961)年生まれ

太田久さん

一般社団法人関東地域づくり協会
元企画部工事情質調整官

新年あけましておめでとうございます。

皆さまから「キューちゃん!」「キュー!」と呼ばれていた私も、はや還暦(60歳)を迎えることとなりました。昨年の4月に40年間勤めた国土交通省を早期退職

し、6月から一般社団法人関東地域づくり協会に就職し、今までと同様、自宅のある山梨県都留市から毎日、片道2時間30分の小旅行を楽しみながら通勤しております。

荒川下流河川事務所協の官舎から山梨に引っ越したのは平成11(1999)年3月で、三男が小学校へ入学するときでした。その当時、自宅を持つと単身赴任だと言われていましたが単身赴任することもなく(利根ダム統管2年間のみ単身経験)片道最大3時間の生活が始まりました。自由になるのは土日ぐらいですが、蛙や蝸の鳴き声を聞きながら季節を楽しみ、家庭菜園に精を出し、自家製の手作り味噌に舌鼓を打ちながら毎日元気に過ごしております。

今回の丑年、令和15(2033)年は72歳、そのときも同じように「何事もなく夫婦二人、毎日元気に楽しく過ごしております」と言えるように、頑張りすぎず無理をしない程度に過ごしたいと思います。

またどこかでお会いしましたら、いつものように「キューちゃん!」「キュー!」と呼んでください。

昨年よりコロナ禍で日々の生活が制限されておりますが、早く平穏な日々が取り戻せますとともに、皆さまにとりましても素敵な一年でありますようにお祈り申し上げます。



2021

丑年

年男、
今年もよろしく
お願いします。



令和2年度

関東地方防災エキスパート支部別講習会を実施

平成21年4月28日付で当協会（当時：関東建設弘済会）と国土交通省関東地方整備局との間で締結した「関東地方防災エキスパート」制度に関する協定に基づき、防災エキスパート活動の円滑化を目的として、支部別に講習会を実施しています。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、合同で実施している首都圏四支部の講習会については「そなエリア東京」での講習会を取りやめ、関東地方整備局講師の講義をWebにてオンデマンドで配信し、例年の参加者

数と同程度の方々が視聴されました。

その他の5支部については、例年午後には実施している現場見学会を中止して午前中だけの講習会とし、受付時の体温チェックや密を避けるなどの対応をとって実施し、計102名の防災エキスパートの方にご参加いただきました。



高崎支部での実施状況

令和2年度 関東地方防災エキスパート支部別講習会実施状況

支部名	参加者数	実施日	講習会場	関東地方整備局講師
水戸支部	26名	12月17日(木)	茨城県県西生涯学習センター	山田博道氏(総括防災調整官)
宇都宮支部	12名	11月26日(木)	足利市民プラザ	高田昇一氏(防災対策技術分析官)
高崎支部	30名	12月4日(金)	ビエント高崎	高田昇一氏(防災対策技術分析官)
四支部 大宮支部 千葉支部 東京支部 神奈川支部		12月21日 ～ 2月1日	Web講習	山田博道氏(総括防災調整官)
甲府支部	23名	11月27日(金)	ペルクラシック甲府	田中満氏(防災室長)
長野支部	11名	12月2日(水)	ホクト文化ホール	小木曾俊夫氏(防災情報調整官)
合計(四支部以外)	102名			

令和2年度 公益助成事業紹介

関東・水と緑のネットワーク 令和2年度交流会

当協会では、公益財団法人日本生態系協会と共催して、関東地域の身近な風景や自然、人とのかかわり・つながりを創出する拠点を、「関東水と緑のネットワーク拠点」として選定して保全活動を支援しています。

平成21年度から今年度までに選定された拠点はのべ125カ所となりました。

12月13日(日)、都内民間会議室において今年度の活動団体の選定授与式と活動発表会を開催しました。例年は、選定授与式に合わせて選定団体の活動拠点の現地見学会、活動発表会を実施していますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため現地見学会は中止とし、参加人数を制限して活動発表会のみ実施しました。

活動発表会については、出席者を選定団体代表者と関係者のみに制限した代わりに、YouTubeでライブ配信を行いました。



今年度(第12回)選定された団体の方々

令和2年度選定団体(6団体)

- ・丘陵ホテルを守る会
- ・鷹取山自然観察会
- ・坪井湿地を復活する会
- ・社会福祉法人砂原母の会 そあ保育園
- ・特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会
- ・群馬県立藤岡北高等学校

第33回 道のある風景写真コンクール

私たちの生活に欠くことのできない道。小中高校生を対象とした「道のある風景写真コンクール」も今回で33回目を迎えました。

今回も日常生活での写真、動物とのふれあいの写真、工夫して撮影した写真など、さまざまな一瞬を切り取った「道」のある風景の写真を応募いただきました。今回はコロナ禍での募集で

あったためどのくらい応募があるか心配しましたが、1,144人の方から作品数2,357枚の応募がありました。

写真家の木村恵一先生、加藤雅昭先生、そして関東地方整備局道路部の近藤進道路情報管理官、株式会社ビックカメラEC本部広告宣伝部の三井健一郎次長、当協会の後藤敏行専務理事の5名による審査で入賞作品が決

審査風景



定しました。

入賞作品は関東の道の駅、千代田区役所ロビーなどで展示を予定しています。

主催：(一社)関東地域づくり協会 協力：国土交通省関東地方整備局、ビックカメラ

金賞



「桜並木を2人で1位」

園部柚玲彩 (そのへゆいさ)さん
茨城県 茨城大学教育学部附属小学校4年生



「小正月」 反町維吹 (そりまちいぶき)さん

群馬県 高崎市立長野郷中学校2年生



「道遊び」 永田愛樹 (ながたあき)さん

神奈川県 向上高等学校2年生



学校賞

- 小学校の部 茨城大学教育学部附属小学校
- 中学校の部 鷹南学園三鷹市立第五中学校
- 高等学校の部 群馬県立前橋工業高等学校

銀賞



「右・左・右」
1人でわたれるかな?

須田涼楓(すだりょうか)さん
神奈川県
横浜国立大学附属鎌倉小学校6年生



「幻の2020」

佐々木駿介(ささきしゅんすけ)さん
千葉県
松戸市立第五中学校2年生



「夕日と友」

鈴木理子(すずきりこ)さん
東京都 三鷹市立第五中学校3年生



「ひとやすみ」

丹戸優(たんどゆうたか)さん
神奈川県
横浜国立大学附属鎌倉小学校6年生



「春爛漫」

佐藤弓月(さとう ゆづき)さん
群馬県 県立前橋工業高等学校2年生



「日暮れの道路」

山岡康洋(やまおか こうよう)さん
東京都 都立橋高等学校2年生



「待つて〜!」

郷田純一郎(ごうだじゅんいちろう)さん
神奈川県 横浜国立大学附属鎌倉小学校2年生

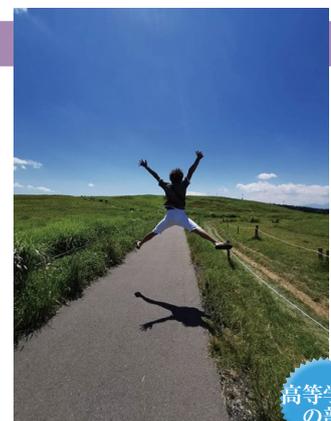
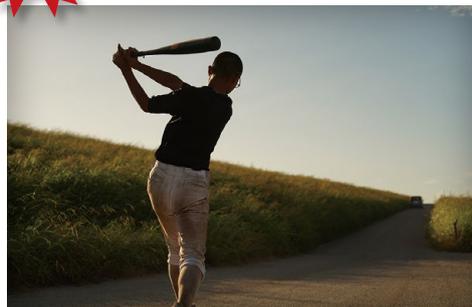


ビックカメラ賞



「夢ある道」

藤森滉太(ふじもりこうた)さん
千葉県 松戸市立第五中学校1年生



「jump!!」

柴崎風香(しばさきふうか)さん
長野県 飯田OIDE長姫高等学校1年生

未知への挑戦! 国内最大級の地下放水路 首都圏外郭放水路

倉松川と中川の出水時に洪水が流れ込む第3立坑の内部。奥は第2立坑へと続くトンネルだ

会員の方々に携わったプロジェクトの地を再訪していただき、苦勞や喜び、エピソードさらには事業全体の効果などを語っていただく本シリーズ。第40回は、首都圏外郭放水路の建設に携わった望月美知秋さん、山藤稔さん、澤石久巳さんと現場を訪ねました。



望月美知秋さん

株式会社日水コン河川事業部技術審査役。昭和47年入省、平成24年退職。
元 企画部技術開発調整官



山藤稔さん

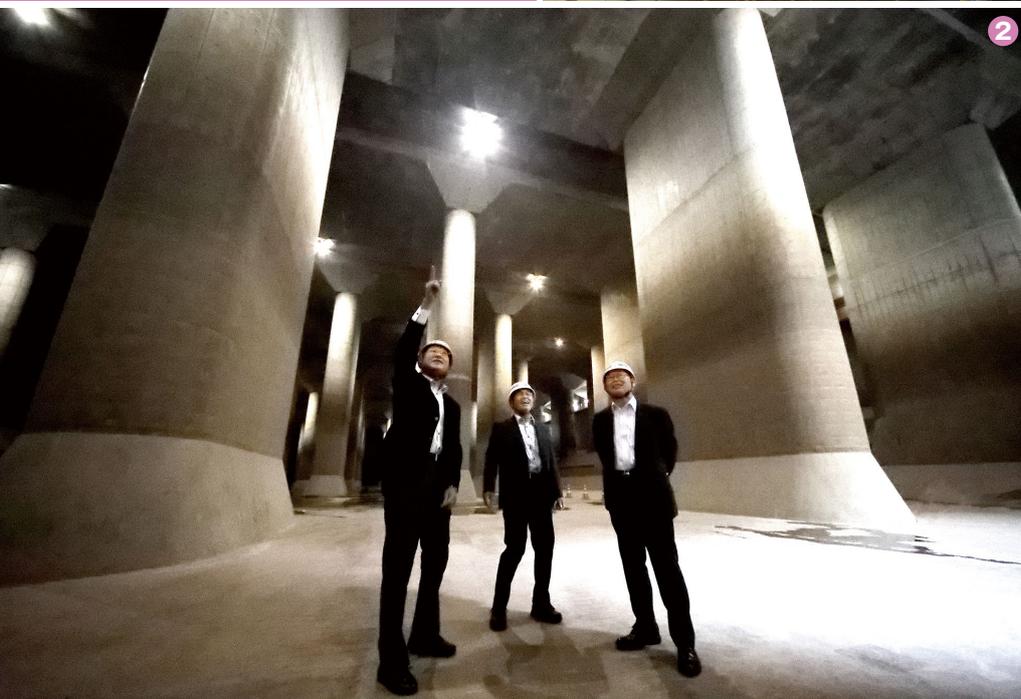
関東建設マネジメント株式会社埼玉支店。昭和52年入省、平成25年退職。
元 高崎河川国道事務所工事事品質管理官



澤石久巳さん

日鋪建設株式会社取締役・技術部長。昭和48年入省、平成27年退職。
元 品木ダム水質管理所長

- ① ガスタービンエンジンが採用されたポンプ
- ② 排水機場の地下に広がる調圧水槽。柱の数や水槽全体の形なども模型実験を繰り返して設計した。出水の際には奥のポンプ設備から水を吸い上げ、江戸川に排水される



- ③ 調圧水槽施工中の様子(平成12年ごろ)
(提供:国土交通省江戸川河川事務所)
- ④ 調圧水槽とつながっている第1立坑。直径約30m、深さ約70m。シールド工事の際にはここから資材搬入を行った

中川流域を洪水から守る “大都市法”に基づいたプロジェクト

中川中流域の治水を支える首都圏外郭放水路（以下、外郭放水路）は、埼玉県春日部市にあり、国道16号の地下50mを通る6.3kmの地下河川である。水を流すトンネルに加え、大落古利根川や倉松川、中川などから洪水を流入させる5つの立坑、江戸川に排水する調圧水槽と、ポンプ設備を備えた排水機場から成る。

外郭放水路の事業は、平成4年に事業化された。昭和50年に策定された「大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法」（通称：大都市法）のプロジェクトのうちの一つとして位置づけられたものだ。

増加する首都圏の人口に対応するため、埼玉県内にもどんどん住宅地を造りたいが、中川中流域は治水の心配があり宅地の整備が進まない。三郷放水路などと併せて、大口径の地下水路を造って治水安全度を高め、宅地開発を促進しようというのがその狙いだった。

「平成4年4月に大規模承認を受け、6月には技術検討会が行われました。平成5年にはもう工事発注ということで、

非常に短時間で事業化されました。急に立ち上がったプロジェクトだったので、とても驚きましたね」と、当時の江戸川工事事務所の工務課工事係長を務めていた望月美知秋さんは言う。

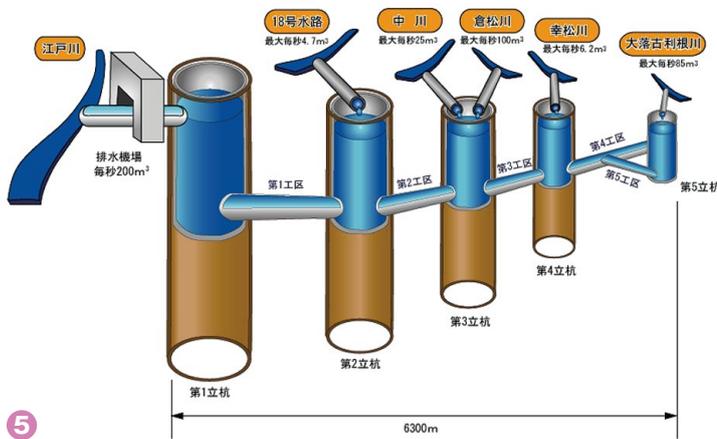
平成5年には全国で初めて「放水路課」ができた。外郭放水路事業の設計・発注を担当する部署である。望月さんは平成7年4月から3年間、2代目の放水路課長を務め、後の平成15年4月から平成17年3月にも副所長として事業に携わった。

「既に東京アクアラインの建設が進んでおり、地下に大トンネルを掘っている。この技術を使い、直轄で施工する“地下河川”の第一号として外郭放水路事業は進んでいたのです。地下河川という新たな事業に事務所としても非常に力を入れていました。当時の技術担当者たちの合言葉は『地下空間、未知への挑戦』。最新の技術で、国内では過去に例のない大口径の地下河川を造ることになったのです」(望月さん)

大深度立坑の建設

澤石久巳さんは、平成5年4月から平成7年8月まで建

5 首都圏外郭放水路の仕組み。第5立坑から第1立坑までトンネルでつながっており、出水時には、第1立坑まで押し寄せた水が調圧水槽に流れ込む



6 出水時の調圧水槽内の様子 (提供:国土交通省江戸川河川事務所)

7 調圧水槽内の水深が「ポンプ停止水位」以上になったらポンプを稼働。毎秒200m³、江戸川に排水を行う



設監督官を務めた。

「第2立坑と第3立坑の契約が終わっており、現場の工事が始まるため、工事のための地元との調整や監督をする立場で着任しました。国内でも例のない地下構造物を造るので、工事を進めるにあたっては戸惑いが大きかったです」と話す。

地下50mに直径10mの管(トンネル)を通すため、まず造るのは直径30m、深さ70mの筒状の立坑だ。

「立坑を掘るには基礎が必要で、そのための仮設構造物として連続地中壁(以下、連壁)を施工しました。それ自体はポピュラーな技術ですが、問題は、日本で一番深い連壁であること。第3立坑は140mの連壁で、当時、日本で一番深いものだったのです。建設省(当時)内でも経験がない深さです。その施工管理をどうするか。初めてのことばかりでしたから、施工業者も含めて勉強会をしました。施工中にもアクシデントもいろいろ出てくる。土木研究所や先端技術センターに相談してアドバイスを受け、さまざまな工夫をしながら対処していきました」(澤石さん)。

最先端の土木技術が惜しみなく投入された

山藤 さんどうみのる
山藤 さんさんは、平成15年4月から平成19年3月まで、5代目にして最後の放水路課長を務めた。

「平成14年には、第3立坑までの3.3km区間が暫定通水していました。その後を受け、第4立坑、第5立坑、トンネルなど残りの施設工事を担当し、平成18年に完成通水と

なりました。流域全体の洪水を計算して、第5立坑まで必要だという計画に則って進んでいましたが、平成14年の暫定通水以降は、出水すると必ず浸水するという低地部分に対し、効果を発揮させることができよかったです」(山藤さん)

実は、「10年で効果を出す」というのが、外郭放水路事業の計画当初からの使命だった。その目標は十分に達成されたといえるだろう。

外郭放水路事業には、他にも課題が与えられていた。事業が開始した平成4年は、バブル経済が弾けて財政的にも厳しい目が向けられるようになった時期。コストを下げる工夫が求められるようになったのだ。そのため、新技術を投入してさまざまにコスト削減を図ったという。

例えば、庄和排水機場のポンプには、ディーゼルエンジンよりも小型でさらに馬力のあるガスタービンエンジンを採用。排水機場がコンパクトに設計でき、建設コストは格段に抑えられた。

未来へつなげる“地下のトンネル”

トンネルを掘るシールドマシンは、先端に土を掘るカッタービットがついた掘削機だが、一気に何kmも掘ると、カッタービットが摩耗してしまう。当時はまだ1台のシールドマシンで掘るのは約2km。まず立坑を造り、その底でシールドマシンを組み立てて発進し、トンネルを掘っていく。第1トンネル(第1立坑から第2立坑まで)、第2トンネル



⑧⑨ 出水時の様子。⑧は倉松川から第3立坑への流入口、⑨は第3立坑内。「初めて倉松川から流入したときは魚も一緒に入ってきてしまい、職員がバケツリレーで川に戻しました。ただ、不思議なことに、その後はあまり入って来なくなったんですよ」と望月さん
(提供:国土交通省江戸川河川事務所)



⑫ 江戸川への排水口。首都圏外郭放水路ができたことで、中川中流域の浸水被害は激減している



⑩⑪ ⑩はセグメントのつなぎ目が見えるトンネル壁。シールドマシン前面のカッター盤が回転して土を掘り、掘り終わったところにセグメントが自動で組み上げられる。⑪は排水機場の広場に、記念に設置されたカッター盤



(第2立坑から第3立坑まで)、第3トンネル(第3立坑から第4立坑まで)で、マシンを3台使った。だが、第4トンネル(第4立坑から大落古利根川通過部まで)は、カッタービットだけ交換して第3トンネルで使用したシールドマシンで掘り進んだ。マシン1台分のコストを削減できただけでなく、第4立坑自体も小さくすることができた。

これだけ大規模な事業ではシールドマシンで掘り出した土も大量だ。掘削土のうち二次処理土の一部が産業廃棄物扱いになってしまう。水分を搾っても約20万m³もある土を処分するには膨大なコストがかかる。この土を有効利用するため、全国で初めて再生利用認定制度(厚生省:当時)の認定を受け、江戸川のスーパー堤防に活用した。

計画段階では「いけるだろう」と判断しても、経験したことのない“地中深くの河川トンネル”であることから、想定外の問題が出ることも多かった。平成18年の完成までに13年の年月を要した。困難な事業だったが、携わった多くの人々の努力と情熱と最先端の土木技術が投入された。「本当に、未知への挑戦でしたね」と3人は振り返る。

地元の人々へのPRにも力を注ぎ、待望される施設に

外郭放水路は、そのほとんどが地下の構造物。工事自体も地域の人々からは見えない地下で行われた。

「外郭放水路の現場は、点でしか仕事をしていないんです。地元の人には、調圧水槽も立坑も、何をやっているの

かよく分からないと言われました。そこで、私が現場監督のときには、国道沿いの広場のグラウンドに看板を立てるなどしてPRを始めました。現場を仕切る鋼板に工事の内容が分かるような絵を付けたり、スケルトンのシールドを使って一部見えるようにしたりと、“見える化”を意識しましたね」と澤石さん。

望月さんは、調圧水槽の施工のために地盤を掘ったとき、地域の小学生を集めて「貝掘り」をしたと振り返る。

「海がない埼玉県なのに、なぜ貝掘りができるのか。約2万年前は、このあたりも海だったのです。そんなことを説明して、地元の方にも興味を持ってもらえるように努めました」(望月さん)

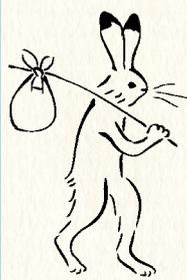
毎年11月18日の「土木の日」には、4,000～5,000人が集まる見学会などのイベントも開いた。

「地元ボランティアの意見なども取り入れて企画しました。できた後も地元の人々に忘れ去られてしまわないようにPRしていくことが大事だという実感はありましたね」(山藤さん)

大規模な公共事業について、「無駄だ」という批判も出始めていたころのこと。正しく外郭放水路を理解してもらうことで、多くの人から待望される施設となったのである。

令和元年10月東日本台風の大雨が各地に大きな被害をもたらしたときでも、外郭放水路の活躍により中川中流域の被害は最小限に抑えられた。

地下を流れる大河川——首都圏外郭放水路は、中川中流域に住む人々の安全・安心を守り続けていくことだろう。



天下の険の 憩いどころ 箱根宿

江戸時代、東海道などの
街道に設けられたのが宿場です。

旅人を迎え送り出した宿場の古今の様子を、
関東地方の各地に訪ねるシリーズ。
第4回は東海道10番目の宿場、箱根宿です。



富士山と芦ノ湖は箱根のシンボルだ

広重が描いた天下の険の浮世絵「箱根湖水図」。
強烈なデフォルメで人々を驚かせた
(画像提供: 国立国会図書館デジタルコレクション)

箱根の山中に新たに設けられた宿場町

東国と西国を結ぶ東海道は、古来より重要幹線として多くの人が往来してきました。当時のことゆえ難路の連続でしたが、中でも難所として知られたのが箱根路でした。そのため奈良・平安時代は箱根越えではなく足柄峠越え(足柄道)が使われました。神奈川県山北から御殿場を通り三島に至るルートです。距離はありますが旅程は比較的楽です。鎌倉時代になると道程を縮めた湯坂道も使われるようになりました。湯元から鷹巣山を經由芦ノ湖畔・箱根神社(箱根権現)に至る尾根沿いのルートです。

そして江戸時代。徳川幕府は箱根越えのルートを谷沿いに変更します。江戸防衛のためといわれています。これにより箱根峠を越える箱根八里は、上り下りとも急勾配の坂道が続く東海道最大の難所となりました。前後の小田原宿は標高10m、三島宿は25m。これに対し箱根峠の標高は848m。箱根八里(約32km)の行程は800m以上の標高差を克服する困難な道でした。

これに難儀したのが、江戸への参勤交代を義務付けられた大名をはじめとする旅人たちです。小田原宿と三島宿の間で、道中休むところがありません。途中で宿場がほしい。その声が幕府を動かします。記録によれば元和4(1618)年、芦ノ湖畔に箱根宿が設けられました。これにより、旅人は富士山

と芦ノ湖を眺めながら箱根越えの苦労を癒やすことができるようになったのでした。

2人の領主を持つユニークな宿場

箱根宿は当初元箱根地区に予定されましたが、箱根神社の門前町であることから、幕府は元箱根の三島寄り芦ノ湖畔に新たに宿場を設けることにしました。設置にあたっては小田原宿から50戸、三島宿から50戸移住させました。小田原からの移住者が住んだ地区は小田原町、三島からの移住者が住んだ地区は三島町と呼ぶようになり、この町名は現在も残っています。箱根宿が設置された翌元和5(1619)年には、箱根宿の北側に箱根関所も設けられました。

箱根宿の経営は当初は苦しく、幕府は宿場町全域の年貢免除や米などを補助するなどして維持発展に努めました。やがて箱根宿は徐々に栄えるようになります。天保14(1843)年の記録によると、戸数195戸、人口844人、本陣6軒・脇本陣1軒に多数の旅籠を擁する宿場町に発展しました。

箱根宿には他の宿場と異なる面がありました。宿場の統治が2つに分かれていたのです。小田原町は小田原藩領分。三島町は三島代官所管轄の天領。一つの宿場で2人の領主を持っていたのです。このような形態は東海道五十三次では箱根宿だけです。天下の険の宿場はユニークな形態を維持しながら、旅人の休息の場として働き続けたのでした。



今も残る東海道旧街道向坂付近。杉並木と石畳が当時をしのばせる



芦ノ湖沿いの東海道旧街道杉並木に残る一里塚



復元された箱根関所。
江戸防衛のため「入鉄砲出女」を厳しく取り締まった



幕末の箱根宿。標高700mを越えた高所にあり、田畑のない厳しい環境にあった(横浜開港資料館所蔵)



箱根神社。古くは源頼朝も参詣したという由緒ある神社である



駒形神社。箱根神社の末社であり箱根宿の鎮守だった



明治のなごり、鉄製ハイカラ橋

今回ご紹介する土木遺産は、東京都中央区にある南高橋です。亀島川の河口付近に架かる、橋長63.1m、幅員11.0mの道路橋です。竣工は昭和7(1932)年ですが、明治37(1904)年架設の旧両国橋の中央径間部が転用されており、部材のほとんどが当時のままという、御年116歳の「明治生まれの橋」です。現在も自動車を通す現役の橋であり、明治の道路トラス橋としては都内で二番目の古さを誇っています。

南高橋の前身である旧両国橋は、明治8(1875)年に架設された西洋式方杖型木橋であるそれまでの両国橋が、欄干崩落事故(明治30(1897)年)を起こしたため架け替えられた橋でした。明治維新によって海外からもたらされた当時としては新素材の鉄製であり、構造は最新のアメリカ式ピン・トラス、形状も新しい橋梁デザインとして取り入れられつつあった曲弦プラット・トラス。橋門構や欄干に西洋風の装飾が施された最先端の橋でした。木造の

橋がまだ当たり前だった時代に、鉄の橋はそれだけで文明開化を感じさせるハイカラなものでした。明治生まれの文学者木下杢太郎は「両国」と題した詩の中で江戸情緒と異国情緒を旧両国橋の情景に重ねています。

リサイクルで経費削減

大正12(1923)年9月1日、神奈川県南部を震源とするマグニチュード7.9の大地震が関東地方一帯を襲います。関東大震災です。これにより、東京の橋梁は多くの被害を受けました。東京市(当時)内にあった675の橋のうち18橋が地震の直接被害を受け、340橋が火災によって焼失。鉄橋のほとんどが通行不能となるなか、旧両国橋の被害は木製だった両側の歩道部の焼失に留まります。震災前と変わらない強度を維持した旧両国橋は震災直後から応急・復旧工事が行われ、当初はそのまま使い続けられる予定でした。しかし震災の2年後に改築が決定されます。

一方、南高橋の架設は、震災からの復興達成を記念する帝都復興展覧会が終わり、内務省(当時)の復興担当

曲弦プラット・トラス。
中央から端に向けて逆ハの
字に斜材が入っている



修景されたエンド・ポスト・キャップ。
旧両国橋のものより小ぶりな造り



関東の土木遺産 第41回

明治の橋梁技術を今に伝える

南高橋 東京都

土木学会では現存する貴重な土木構造物を調査し、「日本の近代土木遺産」として発表しています。



それらの土木遺産の中でも特に価値があるとされる選奨土木遺産。第41回は東京都中央区にある南高橋です。

華奢で軽やかな、
ピン・トラス橋の南高橋



部局も廃局した後の昭和6(1931)年1月に始まります。当初の区画整理計画が途中で変更されたために、急遽決まった架設計画でした。この降って湧いたような予定外の設計変更を予算内で収めるべく、東京市が行ったのが旧両国橋の転用でした。3連あったアーチの中で一番状態の良い中央径間を補強し、幅員を狭めて移設しました。総工費は、新しく橋を架けるより2割ほど安くできました。工事は急ピッチで進められ、着工の翌年の3月3日に南高橋は竣工しました。

過去・今・未来をつなぐ橋

「明治期の道路橋が現役で使われていることは本当にすごいことです」。南高橋について、真田純子東京工業大学准教授はこう話します。「ピン・トラス橋は製造されていた時期が短く、また荷重によって接合部分のピンや孔が破損しやすいために、現存しているものは多くはありません。現役であるということは、部材が弱らずに強度を保っているということ。保全のために古い道路橋を荷重の少

ない歩道橋などにする例はよくありますが、道路橋として使われているのは貴重です」

平成に入ると、南高橋は中央区の有形文化財に指定され、あらためてその価値が注目されます。さらに区の橋梁美化事業によって旧両国橋時代の装飾や塗装が修景され、橋詰広場の整備も行われるなど、かつての姿を取り戻していきます。そして、平成28(2016)年に「都内に現存する鉄橋のうち道路橋としては最も古い橋であり、トラスの一部材の端に丸い環のついた『アイバー』が用いられた構造上の特徴を持つピン・トラス橋である」ことが評価され、南高橋は選奨土木遺産に認定されました。

震災と戦災を生き延び、移り変わる周囲の街並みの中で人々の生活に寄り添ってきた南高橋。「今は生まれた時からインフラが整っている時代。けれど、昔の人の技術開発や苦労があって『今』がある。歴史を想像したり、それがなかったころのことを想像することは、昔の人の思いに触れることでもあるのです」と真田先生。明治に生まれ令和の今なお現役で活躍する南高橋は、過去と今を、そして今と未来をつなぐ架け橋でもあるのです。

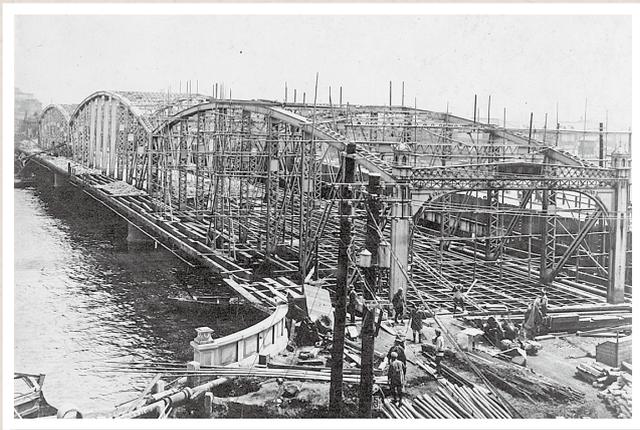


アメリカ式トラス橋の特徴であるアイバー。部材を剛接せずピンで留めているため車両の往来で微妙に動く

ひっきりなしに車や人が行き交う。明治期の道路橋が現役で活躍しているのは珍しい



日々の生活に欠かせない「道路」として、地元の人に親しまれている



震災後、応急・復旧工事中の旧両国橋。垂直材が新設された中央部が南高橋になった(提供:土木学会附属土木図書館)

ビルが立ち並ぶ南高橋周辺。もともとは海辺の物揚場として、江戸から昭和の終わりがまで倉庫が立ち並んでいた



会員のひろば

このページは
会員の皆さまの
投稿によるページです



「還暦祝」香川丸亀ハーフマラソン。
家族に感謝し完走!

コロナ禍の日々

コロナ禍で会員の皆さま方も大変な一年であったかと思いますが、新たな生活様式となった令和2年を振り返ります。

平日の在宅(勤務)は当初、気まぐさを感じましたが、徐々に自然体で生活できるようになり、屋外に出てガーデニングも楽しむようになりました。また家で食事が増えたので、料理の腕を磨くチャンスと捉え、料理番組を参考に還暦クッキングパパに。調味料の「さしすせそ」(砂糖、塩、酢、醤油、味噌)、酒・みりんや特殊な香辛料などを食材に加え新たな料理に挑戦しレパートリーを増やしました。もちろん特別定額給付金は食費で終わります。

退職後は旧知との再会のため地方のランレースに参加していましたが、コロナ禍で国内の市民大会は全て中止となり、2月の香川丸亀ハーフ大会以降は走っていません。3月以降は大会再開に備え月間200km超走を目標に、マスクをして一杯を楽しみに走り続ける日々でした。秋前に両足首の怪我をして治療とリハビリの毎日となってしまいましたが、コロナ太りに注意して早期復帰を目指しています。

新たな出会いは丑年に期待

先輩方との再会を楽しむOB会は全て中止となり寂しい一年でしたが、次回開催を期待しています。会社では前職の経験から社内外の方々との関係も築けてきたところで自粛の一年となり、残念でした。令和3年は新たな出会いを楽しみます。

地元では自治会役員として現役時代の先輩の方々や同年代の役員の方々と活動しています。「辞めるときは死ぬときだよ」が合言葉(笑)で皆さん頑張っています。地元行事も全て中止でしたので、早くコロナ禍が過ぎてもらいたいものです。

令和の時代は人生の再スタート

平成最後の退職と新型コロナウイルスをきっかけに断捨離しました。整理した写真などから過去のさまざまなことが当たり前だった時代が懐かしく思い浮かぶため、エッセー(随筆)として書き残し始めました。今般、紙面の一部をお借りして、公務員として約20年過ごした大手町の思い出を「華やかな大手町に感謝」として紹介します(次頁)。

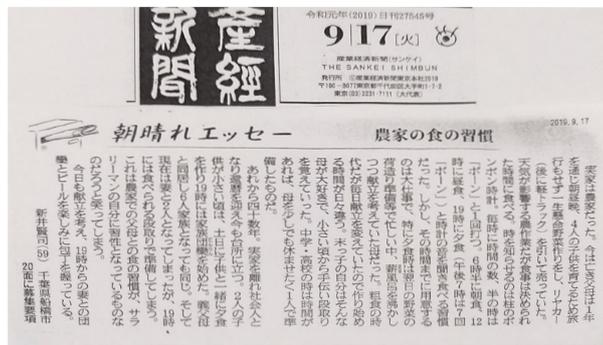
令和の時代は人生の再スタート。アフターコロナはウィズコロナ。これから何が起こるか楽しみです。

コロナ禍の日々



新井賢司

株式会社安藤・間 東京支店 顧問
元関東地方整備局総務部契約管理官



エッセーが産経新聞に掲載されました

華やかな大手町に感謝

官庁、都市銀、新聞社、商社ビル等の大手町は高度成長期に勢いがあつた。新人マンが春を活気づけ、夏も背広ネクタイは当たり前。秋は慰労旅行の観光バスが並び、冬はビル風に負けずコートに襟を立て人が動く。四季折々の思い出が生れる街だった。特に新年は箱根駅伝で始まり、仕事始めはOLの艶やかな着物姿の華やかな着物ショーでもあつた。

机には黒電話に灰皿。帳簿、そろばんにカーボン紙で仕事。廊下の公衆電話は家へ残業か飲み会の連絡。仕事後はビル地下か神田か大手町地下で「報・連・相」を行う。「おまえな。仕事とはな。頼むからな」と話が尽きず翌日にもなる。大手町の一日は早く過ぎていくのだが、上司・先輩・同僚・後輩との強い絆は作られていた。今日のハラスメントや働き方改革とは無縁

で繋がりを大事にしていた。若い時に多くの経験ができた大手町に感謝したい。当時を思い出すほど多くの人を思い出す。今はもう会えない方もおられるが再会したい人もおり、昔を懐かしみ今後の新たな人生の元気の源としたい。

時代が変われば当たり前は当たり前でなくなる。通勤途上の今の大手町は超高層ビルに生まれ変わり、多くの緑に囲まれている。地下は華やかなショッピング街「オーテモリ」が多くのサラリーマンを包み込む「森」となっている。そして、新春に盛り上がる箱根路への挑戦は、年初めのエールとなっている。大手町よ、ありがとう。



大手町の思い出——
読売新聞社前の箱根駅伝歴代優勝校モニュメント、地下の森「オーテモリ」

会 員 情 報

令和2年11月1日～
50音順・敬称略

新会員をご紹介します 新しく2名の方が入会されました。これからよろしくお願いたします。

氏名	現勤務先	氏名	現勤務先
碓井 道人	(一財)民間都市開発推進機構	富田 耕司	国際航業(株)

お悔やみ申し上げます 謹んで哀悼の意を表します。

氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名	氏名	逝去年月	建設省(現国土交通省)退職時職名
福原 憲二	令和2年8月	千葉国道 出張所長	黒羽 信光	令和2年11月	総務部 総務課長
飯島 利雄	令和2年11月	利根川下流 事務係長	柏樹 重暢	令和2年12月	道路部 地域道路調整官

編集委員会だより

2021年1月

あ けましておめでとうございます。令和3年のスタートを、皆さまはどのようにお迎えになったでしょうか。

新型コロナウイルスが全世界で感染拡大しており、例年とは異なる年末年始を過ごされた方も多くおられたのではなかったでしょうか。また、忘年会や新年会を自粛したり、離れて暮らしているご家族が帰省を見合わせたり、年末年始の休暇を利用して旅行なども取りやめて巣ごもり生活をされていた方もおられたのではないのでしょうか。

今年には開発されたワクチン接種が国民を対象に実施されることから、昨年延期された東京オリンピック、パラリンピックも開催されると思われれます。コロナを吹き飛ばし、精一杯、選手の活躍を応援したいと思います。

「ガンバレ日本！」

(編集委員 N・A)

編集委員

- [関東地域づくり協会]
- 澤田 晋
- 堤盛良
- 中村一夫
- 野橋明彦
- 前田隆徳

[会員]

- 望月美知秋 ((株) 日水コン)
- 田中良彰 (大成建設 (株))

ピックアップ

第18回

関東の道の駅

ウェルネス(健幸)をキーワードに、地域の交流を促進する



道の駅
むつざわ つどいの郷



オリーブをモチーフとしたシンボルマークや白と木目を基調とした爽やかな雰囲気、若い人たちにもアピール

町民の「健幸」促進を図る「スマートウェルネスタウン」と、エネルギーと農産物の「地産地消」をテーマに、官民連携で再整備し令和元年9月にリニューアルオープンした道の駅「むつざわ つどいの郷」。温浴施設や特産物販売を中心に、人々の交流を生み出しています。

人々の健康意識を高めるため、地域内の交流を促進するためのサードプレイスに

千葉県長生郡睦沢町は人口約7,000人。人口が減少する中、幅広い年齢層の人々が集い交流できる拠点づくりが大きな課題となっていました。そこで構想されたのが「むつざわスマートウェルネスタウン」。道の駅と住宅を一体的に整備し、町内の交流の拠点とするものです。

「どんな政策を打っても、皆さんの体調が悪ければ成果は上がりません。そのため道の駅には、さまざまな研究結果を参照し、健康支援につながる施設を設置しています」と説明するのは、睦沢町まちづくり課の市原大嗣さん。

道の駅の施設としては、温浴施設やトイレ、直売所やイタリアンレストラン、カフェ、情報発信コーナーのほか、ロードバイクや電動自転車も借りることができるサイクルステーション、ドッグランも備えています。道の駅に隣接する土地には、子育て世代や高齢者を対象とした住宅も一体的に整備され、現在は全戸が入居済み。ここにも公園や多目的の集会所など、健康につながる施設が配置されています。

健康促進効果の実証は今後の課題ですが、新鮮で健康的な食事、体を動かし湯船に浸かること、他者との交流——こ

こにあればこれらの目的がかなうと、多くの人に認知されつつあるようです。

むつざわスマートウェルネスタウンを管理する企業体のエリアマネージャーである早坂淳一さんは「ここに来れば何かある」というサードプレイスとして、町内外の人々にさらに利用してもらいたい」と話します。

地元産天然ガスで、エネルギーも地産地消！自家発電と温浴施設が自慢

この地域の大きなポテンシャルは、地下深くに広がる国内最大級の天然ガス田(南関東ガス田)から産出される天然ガス。「エネルギーの地産地消」も、大きなテーマです。民間のガス会社から、天然ガスとかん水(海水からガスを抽出する際に発生するヨウ素を含んだ水)の提供を受け、発電の廃熱を利用して温浴施設を運営しています。温浴施設は町内外の人々に大好评！排水は浄化した後に海に還るとのことで環境にも配慮されています。

リニューアルから1年、さまざまな人がそれぞれの目的で立ち寄り、交流できる場として、道の駅「むつざわ つどいの郷」は大きな役割を果たしています。

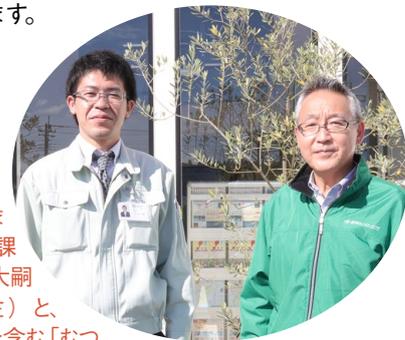


直売所には近隣市町村の産物も並ぶ。睦沢町産の目玉は、8月に収穫されるむつざわ米。これを目当てにやってくる人も多い

道の駅と住宅で必要な電力の約7割を供給する発電機。令和元年9月の台風時には、このおかげで停電を回避できた



睦沢町まちづくり課の市原大嗣さん(左)と、道の駅を含む「むつざわスマートウェルネスタウン」を管理する企業体のエリアマネージャー・早坂淳一さん



町内の人々の憩いの場所となっている温浴施設。遠方からも多くの人々が訪れる

道の駅に隣接する住宅には子育て世代や高齢者が入居。電線は地中化され、台風など災害時も安心

